

学校法人相愛学園

理事長 相田 芳久 様

令和5年度

焼津幼稚園

学校評価結果報告書

理事長決裁



焼津幼稚園

園長 相田 早苗

2月上旬に、園内における教職員による自己評価、保護者を対象にしたアンケート調査を実施し、それらをもとにした園内の自己評価を提出いたしました。また、それに基づき、2月29日には、学校関係者評価委員会を開き、関係者評価も実施いたしました。その際の評価の詳細についても、あわせて提出いたします。

それらを踏まえたうえで、以下の点を次年度への課題として捉え、重点目標として真摯に取り組んでまいりたいと思います。

《来年度の重点目標として》

- ◎ 友達との生活の中で、一人一人が自分らしさを発揮しながら生活し、子どもの主体性を育むことを基本の目標とし、実践を考察しながら保育の質の向上に努める。昨年度の園内研修を継続し、子どもの体幹を育てるために、生活や遊びの中での体験を工夫する研修を進めていく。また、戸外遊びの充実のための園庭環境の構成についても引き続き計画とふり返りを継続していく。園内でのクラス間の公開保育を行いながら保育の点検や子どもの育ちの共有にも引き続き取り組んでいきたい。

以上のように、学校評価のまとめとしてご報告いたします。

令和6年3月19日

令和5年度の教育活動に対する学校評価書

令和6年3月12日

学校法人相愛学園 焼津幼稚園長 相田 早苗

学校法人相愛学園 焼津幼稚園学校関係者評価委員会長 渡邊 徹

□ 本園の教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく、独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

教育目標の4つの柱

- | | | | |
|----|-----------|----|-----------|
| 1、 | じょうぶなからだに | 2、 | いのちをたいせつに |
| 2、 | やるきのあるこに | 4、 | よくかんがえるこに |

- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
- ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらっての造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらっての体育指導、屋外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

□ 本年度の重点目標

- ① 集団生活の中で、一人一人が自分らしさを発揮しながら主体的に生活していく姿を育む。
 - ・ クラスや友達同士などの集団の中で、その子なりの思いや意欲、力が引き出せるよう援助・指導をしていく。
 - ・ 遊びの充実につながり、子どもの主体性や学びを支える環境の工夫について考える。
 - ・ すべてのクラスで園内公開保育を行い、子どもの育ちや保育者の援助等について学び合う。
 - ・ 今の子どもの姿をもとに、教育課程を見直す。
- ② 子どもの体幹を育てるための遊びや生活を工夫する。

□ 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価項目	自己評価		評価点	学校関係者評価委員会
	評価点	取り組み状況・反省と改善策		意見
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園の教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭に置いて指導・援助の工夫や環境設定の工夫がなされたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めには、クラス担任以外の教職員全員で重点目標についての理解や大切にしていくこと等について共有する研修を実施し、共通理解を図るよう心掛けた。 ・園内研修のテーマとして、①昨年から継続して“園庭環境の充実と子どもの育ち” ②子どもの体幹を育てる、という2つのテーマを設定した。 <ul style="list-style-type: none"> ① 園庭環境については学期末ごとに振り返りと次期への課題を挙げて進めてきたが、課題に対する実践という点で、不十分だったという反省が残る。 ② 近年の子どもの表れから、体幹の弱さを痛感していて、日頃の遊びや生活の中で、簡単なことでも継続して積み重ねながら体幹の育ちにつなげていくことを願い進めてきた。実践してきたことについては成果がみられた。体幹を育てるためには長期の取り組みが必要であると考え、引き続き取り組んでいきたい。 ・継続して各クラス間での園内公開保育研修も実施し、子どもの主体性を育てるための環境や援助について考える場としてきた。学期末の振り返りや教育行事の事前事後研修に加え、教育課程の見直しも実施。研修時間を捻出することが難しくなっている中、行事等で多忙な時期には、どうしても研修時間を作ることが出来にくく、工夫が必要であると感じる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の特徴として、園全体で『体幹を育てる』ことに力を入れている。どの教師もこのことの重要性を実感している。そこで『継続性を大切に』という認識のもと、個に合ったステップ、テンポを考えて取り組んでいる。 ・自分だけで解決しようとせず、他教師に相談する体制が確立されている。 ・子どもに投げかけることばひとつひとつにも気配りをして、園児に対してしている。 ・アンケートをとり、親の思いを聞き、子どもを見て育てようとしている。

<p>② 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切に、保育者それぞれが、個に応じた指導・援助を工夫していたか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、入園時点での子どもの育ち、表れに幼さを感じ、基本的な生活習慣の指導に重きを置かざるを得ず、今の子どもの姿に合わせて教育課程の見直しも必要となり、難しさを感じる中でも、大切にしたいことについては共通意識をもって過ごせるようにしてきた。豊かな遊びや生活の中でこそ、自分の思いや感じとりを表現できるであろうと考え、今後も工夫して実践していきたい。 ・子ども達の表われも様々で個別の援助を必要とする子が増えている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めてきている。県私幼の子育て支援カウンセラー派遣事業や市の巡回相談、保育所等訪問支援事業等も活用し、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたっている。家庭環境も様々で、家庭での育ちが気がかりな様子もあり、保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてたり働きかけたりしてきているが、子どもの育ちについて理解を共有することが難しい。外国籍の保護者との連携についても、丁寧に行っているが伝わりにくさを痛感する。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児全体の絵画作品が保育室に展示されている。質の高い作品ばかりで、本園が力を入れてきた絵画指導の伝統が生かされている。また、目を引くのは、作品がどれも個性的で、個に応じた援助の積み重ねを観ることが出来る。アンケートを見ても個に応じた育ちが見られて、保護者の信頼が厚い。このように、個に応じた指導が十分にされていることがわかるが、これからも努力を続けて欲しい。
<p>③ 防災や保健衛生、特にコロナ禍で感染予防が求められる中、子どもや保護者にとって、安心、安全な環境となっていたか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練については、毎月実施、主に津波避難に特化した訓練、火災訓練では火災による避難訓練と消防署が実施する花火教室を経験した。 ・12月には市のくらし安全課の講話を受講し、不審者対応の研修を行い、園内での台頭を確認し合った。 ・学園の養護教諭の指導の下、子どもの健康管理について配慮をしてきた。年長児の視力検査については、通常の検査とは別に就学前に再度経験するなどの対応を行っている。 ・園の日常的な対応については保護者へ文書で知らせると共に、感染予防については気に応じて啓蒙を行った。コロナの扱いも変わり、当園や教育行事の運営についても近年の 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭にあった高い遊具が取り外されており、専門業者の点検も受けて危険防止が徹底されている。 ・防災ヘルメットの置き方も、いつ危険が起きても困らない位置に収められている。 ・屋上の避難所も、子どもの気持ちを落ち着かせる配慮があり、もう再訓練も定期的に行われて、保護者も信頼を寄せている。 ・養護教諭を中心に、全職員で感染症対策も行われ、教師の意識も高くなっている。

	<p>運営の仕方の利点も残しながらコロナ前に戻し計画実践してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月半ばには、インフルエンザの流行により、一日臨時休園とし、宿泊保育前の年長については、二日間の学年閉鎖措置を講じた。 	<p>その他の特記すべき事項として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の多様化に伴う以前とは違う園児の表れへの対し方に、配慮する点が多くなっている。今後さらに力を入れていってほしい。 ・増えてきた外国籍の保護者との連携の難しさ ・保護者の要望の多様化に、どう応えていくか
--	--	---

園内自己評価（個々の教職員の自己点検・評価とともに、保護者アンケート等の資料に基づいた園長としての自己評価）と、学校関係者評価委員会の結果をふまえ、以下の点を次年度への課題を捉え、重点事項としていく。

次年度の重点事項について

- 1、引き続き、子どもが主体的に生活し、遊びが充実していくような援助や環境の工夫に取り組む。
- 2、子どもの体幹を育てるための遊びや生活を工夫する。

以上のように、学校評価のまとめとして報告する。